



1. 新しい体制で男女共同参画推進本部がスタートしました

ご挨拶

男女共同参画推進本部は、2006年4月に本学に発足し、本年度で9年目を迎えることとなります。本年度より本部長をつとめることになりました。何とぞよろしくお願いいたします。

男女共同参画推進本部は、1999年度に制定された「男女共同参画社会基本法」を契機に、本学における男女共同参画の実現と促進をめざして、2006年より役員会のもとに設置されてスタートしています。そして、2011年より2013年度までの期間、本学の取り組みが科学技術振興機構(JST)の「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、この事業を推進する目的で、「男女共同参画支援室」を設置しました。支援室は、新たにコーディネーターやカウンセラー等の専従スタッフを配置し、主として女性研究者研究活動を支援するために、多数の取り組みを積極的に実践してきました。これまでの活動の様子は、2006年から2年ごとに発行している「男女共同参画白書」で詳細に報告しております。2014年版の白書は3月に発行し、ホームページでもご覧いただけます。

そして、本年度からは、男女共同参画推進本部と男女共同参画支援室を再編し、両者の役割や機能を、こまかく、かつ即応的に実践できるようにしました。また、それに伴って部屋を統合し、より広いスペースを得たことにより、それを有効に活かした活動も展開していきたいと考えています。推進本部および支援室では、「両立支援」「意識啓発」「裾野拡大」を3つの柱に据え、各種交流事業、相談サービス、メンター制度、フォーラムや研修、各種広報活動、学生への対応や啓発など、本学の男女共同参画を推進してまいります。皆様のご協力やご支援をお願いいたすとともに、ご意見やご指導をいただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。

男女共同参画推進本部長 岸 学

今年度の男女共同参画の取り組み

本部では、大きく分けると「両立支援」「意識啓発」「裾野拡大」の3つの部門からなる課題に取り組んでいます。右図に示すような内容になります。

両立支援

- ・相談・交流: 交流会の開催, 相談サービス, メンター制度の導入など
- ・制度の見直し: 在宅勤務の推進, 子育て・介護中の教職員のサービス利用推進と学内行政負担軽減の検討

意識啓発

- ・隔年に男女共同参画白書の発行
- ・フォーラム及びFD研修の実施
- ・ホームページの公開やOPGE通信の発行

視野拡大

- ・学生対応: 女子大学院生の論文投稿支援, フロンティア科目の開講など
- ・その他対応: オープンキャンパス, 大学院説明会での企画

男女共同参画推進本部長

今年度は、下表のメンバーで男女共同参画の推進に取り組んでいきます。取り組んでほしいこと、改善してほしいことなどありましたら、お近くの本部長にお気軽にご連絡ください。

所属	副学長	総合教育科学系	人文社会科学系	自然科学系	芸術スポーツ科学系	附属学校運営部	教職大学院係	支援室
氏名	岸 学	遠座知恵	及川英二郎	竹内伸子	神戸周	山崎幸一	井上美麻	後藤せいこ
		及川 恵	齋藤ひろみ	南葉宗弘	橋本栄一			永田有希子
		倉持清美						桑原美希

男女共同参画推進本部・支援室の移転

2014年5月26日より、男女共同参画推進本部・支援室が、合同棟2階に移転しました。月～金曜日の10時～17時に開室しています。開室時間内は、コーディネーター、カウンセラー、事務担当者が在室し、ご相談・ご意見の受付、ジェンダー関連の書籍の閲覧・貸出、資料閲覧などを随時行っています。また、今回支援室に新たに設けたミーティングスペースでは、男女共同参画支援室学生サポーターの活動や、今後は、教職員や学生向けに、スキルアップ講座やフリーランチなどの交流会なども予定しています。ベビーベッドも設置しておりますので、お子様連れの方も安心してお越しいただけます。どうぞ皆様、お気軽に、一度支援室に足をお運びください。

※支援室でのイベントなどのお知らせは、今後HPやポータルなどでアップしていく予定です。事前にご連絡いただくと確実に本部・支援室をご利用できます。



2. 昨年度の男女共同参画の取り組み

昨年度も様々な活動を展開するとともに、男女共同参画に関する要望書を提出してきました。要望書の提出を契機に具体的な整備が進むケースが多く、今後も学内の声を丁寧に拾いながら、このような取り組みを継続していきたいと思っております。

提出	要望書	要望内容	結果
2013年4月	風疹のワクチン接種の補助に関する要望書	風疹流行に伴い、ワクチン接種と抗体検査の費用を補助する。	ワクチン接種料金の補助が実施された。
2013年5月	柔道場トイレ整備の要望	柔道場の男女兼用トイレのドアや鍵が壊れており、利用する女子学生や女児が不便で困っているのを改修してほしい。	女子トイレが設置された。
2013年7月	女性研究者、女性附属教員増大を図るための公募書類記載内容に関する要望書	本学・附属の教員公募要項に「積極的に女性を採用する」と追記する。	2013年秋より改定された。 ※附属幼稚園を除く
2014年1月	出産・子育て中の教職員の勤務条件に関わる要望書	小学校3年生終期までの育児短時間勤務導入、産前休暇を「6週前」から「8週前」へと改定、子の看護休暇の対象年齢を「小学校就学前」から「3年生終期」へ引き上げる。	産前8週間へ改定。 看護休暇小学3年生終期へ引き上げ。
2014年1月	子育て期にある大学教員の夜間授業免除枠の拡大についての要望書	大学院夜間授業免除の対象年齢を「未就学児」から「小学校3年生」に拡大し、代替措置として夏期休業等を利用した集中方式による開講を認可する。	承認された。

3. 男女共同参画白書について

2006年に男女共同参画推進本部を立ち上げて以来、男女共同参画白書を隔年に発行しています。今年度の「2014年版東京学芸大学男女共同参画白書－女性研究者研究活動支援事業報告書」では、本学が採択された科学技術振興機構(JST)の女性研究者研究活動支援事業「学芸の森が育てる女性の力」プロジェクトの2012年4月から2014年3月までの記録が中心です。本学の学生に実施した理数系科目に関する意識調査結果や、本学の男女共同参画の進捗状況(役員の男女比など)も掲載されています。男女共同参画推進本部のホームページから、白書を見ることができます。今後、本学においてどのような男女共同参画の取り組みが必要かを考えるうえでも貴重な資料だと思います。どうぞご一読ください。

(白書掲載<http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/support/>)

4. 男女共同参画推進本部が企画した学芸フロンティア科目のご紹介

男女共同参画推進本部では学芸フロンティア科目の授業運営にも関わっています。本年度の授業科目は以下の通りです。

学芸フロンティア科目C

男女共同参画推進本部では苦手意識を持たれやすい理数系科目に関する意識調査(「東京学芸大学の学生の理数系科目に関する意識調査報告書」2013.3.31)を実施し、その結果を踏まえ、2013年秋学期から全学対象の「学芸フロンティア科目C」を開講しました。本年度は学生の希望等も検討し、担当教員をさらに多岐の分野へ広げ、われわれの身のまわりの科学についてわかりやすく講義します。

担当者	タイトル
西村 圭一	これからの理数教育について考える
竹内 伸子	切ってみる
宮地 淳一	パラボラアンテナ
太田 伸也	身のまわりの数学
宮下 政司	運動・生活活動を科学する
安原 晃	結び目の話
藤本 光一郎	資源と環境
南葉 宗弘	記憶と学習の情報科学
中西 史	植物の底力
中野 幸夫	地球大気を守ろう
南 道子	食の科学
堂園 いくみ	花とむしの共生
西浦 慎悟	見上げれば月はある?

学芸フロンティア科目H

この授業は、ジェンダーとセクシュアリティについての基本的な概念や、それらをめぐる具体的な事例について多角的な視点で理解できるよう構成しています。現代日本社会において、女であること・男であることは、どのような意味を持っているのか。また私たちは、セクシュアリティをどのようにとらえ経験しているのか。こうした問題を、ダイバーシティ(多様性)の観点を視野に入れながら考えていきたいと思えます。

担当者	タイトル
及川 英二郎	ジェンダーフリー、ポジティブアクション、ダイバーシティ
大竹 美登利	ジェンダー統計からみる男女の暮らしとワークライフバランス
倉持 清美	育児とジェンダー：妊娠期からの夫婦関係の変容
松川 誠一	労働とジェンダー
濱田 豊彦	インクルーシブな教育と社会
鈴木 琴子	対等なパートナーシップのために：性と生殖に関する健康
松田 恵示	スポーツ、ジェンダー、セクシュアリティ
及川 英二郎	ビデオ視聴(セクシュアリティの多様性)

※その他、「教育とジェンダー」「文化とジェンダー」「セクシュアル・マイノリティ」、学生サポーター企画「同世代と考える性の諸問題」などを予定しています。

5. 育児・介護支援研究補助員制度利用募集のご案内

男女共同参画推進本部では、2011年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業の一つである「女性研究者研究活動支援事業」の採択を受け、補助金を財源として、ライフイベントと研究の両立を支援する「育児介護支援研究補助員制度」を2011年度～2013年度にかけて実施してまいりました。

2014年3月末をもって事業が終了したことに伴い一旦募集を見合わせておりましたが、この度新年度の男女共同参画推進本部のもと、新たな制度として募集を開始することとなりました。利用資格や利用期間等を記した募集要項や申請書類については7月の教授会、またそれ以降の男女共同参画支援室のホームページにて配布・公表いたしますので、ご確認ください。

6. コラム

私のワークライフバランス(労働と生活の調和)

大竹 美登利(総合教育科学系生活科学講座 教授)

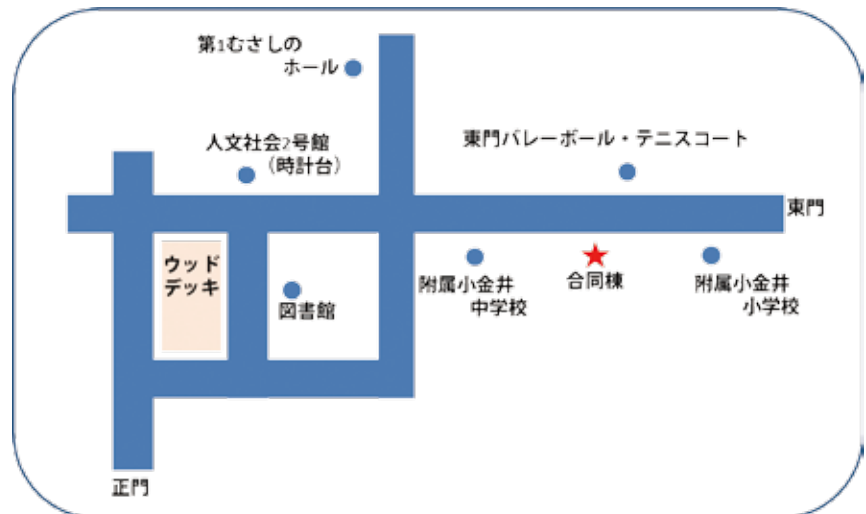
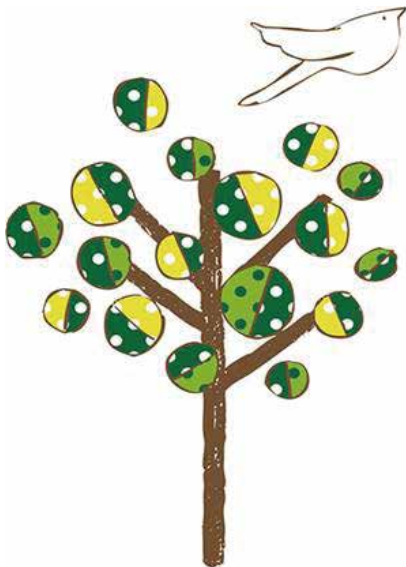
結婚し、子育てし、親を引き取って介護し、一方で、大学卒業以来フルタイムで働き続けてきた私は、労働と生活の調和をうまく図ってきたと誤解され、このコラムを頼まれました。残念ながら現実は違います。優雅とはほど遠く、地面を這いつくばって、目の前の問題を何とかやり過ごしながら生きてきました。

「子どもを迎えに行くから早く失礼します」という男性は褒められ、同じことを女性が言うと「だから女性はだめよね」と言われることに憤慨していた私に、先輩から「女は男の倍働いて初めて一人前に認められるのよ」と教えられ、そうかとあきらめ、倍働いてから文句を言おうと決めました。

育休がなくゼロ歳児を預かる認可保育園は皆無の時代、やっと見つけた無認可保育所へ赤ん坊をおぶって通う満員電車では迷惑顔で睨まれた親業のスタート。認可保育園では、18時の閉園に間に合わない長時間通勤の私は、父母会会長として保育時間の延長を園に要求して実現させ、「無いなら作るのよ」と先輩から言われ学童保育を作ったりしました。その延長線上に学芸大の保育園作りもあったのかなと思います。大変だったけどそのおかげで、地域や大学に掛け替えの無い友人を得ることができました。

仕事時間を編み出すために、家事・育児は極力時間短縮。食事は一手間抜き足も使って20分で作る術を身につけ、二重保育をお願いし、親の介護は地域福祉に依存しました。良い親でも良い娘でも無かった。「共働きの子が・・・」という新聞記事が賑わう時代、「非行少年になって当たり前」と息子に言ったせいか、成らずにすんだのはせめてもの救いです。

男女共同参画推進本部・支援室が
移転しました



東京学芸大学男女共同参画推進本部・支援室

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1(合同棟2階)

TEL: 042-329-7894 E-mail: shien1@u-gakugei.ac.jp

URL: <http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/support/>